

日本文化史Ⅱ

科目ナンバリング JPH-102
選択 2単位

高久 舞

1. 授業の概要(ねらい)

本授業は、民俗芸能を通して、「日本文化」の多様な側面に関する基礎的知識を習得し、説明できることをねらいとする。日本各地には、地域の人々によって伝承されている芸能がある。民俗学、芸能研究において、これらの芸能は「民俗芸能」と呼ばれている。この授業では民俗芸能の研究史を踏まえながら、「民俗芸能」とはどのような芸能なのか、どのような地域でどのような人々によって演じられているのか、基礎的な知識を学ぶ。前期では民俗芸能の概要を学んだが、後期では民俗芸能の地域性や具体的な諸相を取り上げる。特に民俗芸能を演じる人々(演者)の問題に触れていく。民俗芸能の演者たちが抱える諸問題について検討し、現代社会において民俗芸能を伝承する意味について考える。

2. 授業の到達目標

- ① 民俗芸能の基礎概念を理解することができる(知識・理解)
- ② 具体的な民俗芸能について興味関心を持ち、自ら調べ考える態度を持つ(関心・意欲・態度)
- ③ 民俗芸能の現代的課題について自ら考えることができる。(思考・判断)

3. 成績評価の方法および基準

- (1)小テスト(到達目標①) 10%(知識・理解)
- (2)リアクションペーパー(到達目標②) 30%(関心・意欲・態度)
- (3)筆記試験(到達目標③) 60%(理解、意欲)

4. 教科書・参考文献

参考文献

三隅治雄 日本民俗芸能概論 東京堂出版
本田安次 図録 日本の民俗芸能 日本図書センター
文化庁内民俗文化財研究会 民俗文化財の手引き 第一法規出版株式会社
第一民俗芸能学会 課題としての民俗芸能研究 ひつじ書房
大石泰夫 芸能の〈伝承現場〉論 ひつじ書房
高久舞 芸能伝承論―伝統芸能・民俗芸能における演者と系譜― 岩田書院
俵木悟 文化財／文化遺産としての民俗芸能 勉誠出版
高倉浩樹・滝澤克彦 無形民俗文化財が被災すること 新泉社

5. 準備学修の内容

以下のような準備学習課題を課します。

- ・事前に参考書などを読み、講義内容の理解を深める。
- ・YouTubeなどの動画配信サービスを通して民俗芸能の内容を確認する。
- ・民俗芸能に関するニュースを集め、現在の課題について考える。

6. その他履修上の注意事項

コロナ禍において民俗芸能がどのような状況にあるのか、ネットやメディアを通じて積極的に情報を収集する。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | ガイダンス(民俗学と民俗芸能) |
| 【第2回】 | 東京都多摩地域の民俗芸能 |
| 【第3回】 | 八王子市の民俗芸能① 獅子舞 |
| 【第4回】 | 八王子市の民俗芸能② 祭囃子Ⅰ |
| 【第5回】 | 八王子市の民俗芸能③ 祭囃子Ⅱ |
| 【第6回】 | 八王子市の民俗芸能④ 神楽師と芸能 |
| 【第7回】 | 民俗芸能の演者 |
| 【第8回】 | 子どもと民俗芸能 |
| 【第9回】 | 民俗芸能と文化財保護法、ユネスコ無形文化遺産 |
| 【第10回】 | 民俗芸能の現在① 民俗芸能の防災を考える |
| 【第11回】 | 民俗芸能の現在② コロナ禍の民俗芸能 |
| 【第12回】 | 民俗芸能の現在③ 現代社会と民俗芸能 |
| 【第13回】 | 民俗芸能の現在④ 民俗芸能の新たな取組 |
| 【第14回】 | 筆記試験とまとめ |
| 【第15回】 | 【オンライン】民俗芸能の分類(前期の振り返り)
※第1回と2回の間に配信予定 |